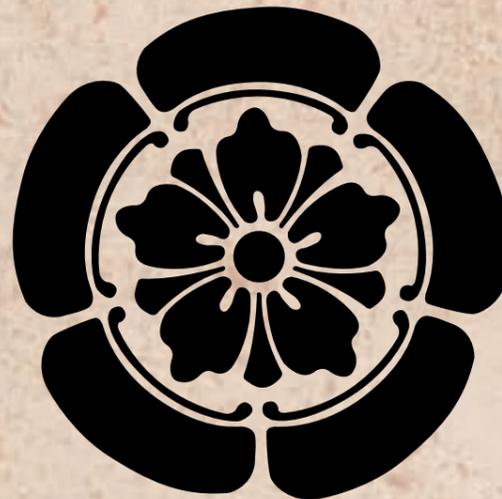


# 歴代大村藩主

参考資料：新編大村市史第5巻・大村史談第49号

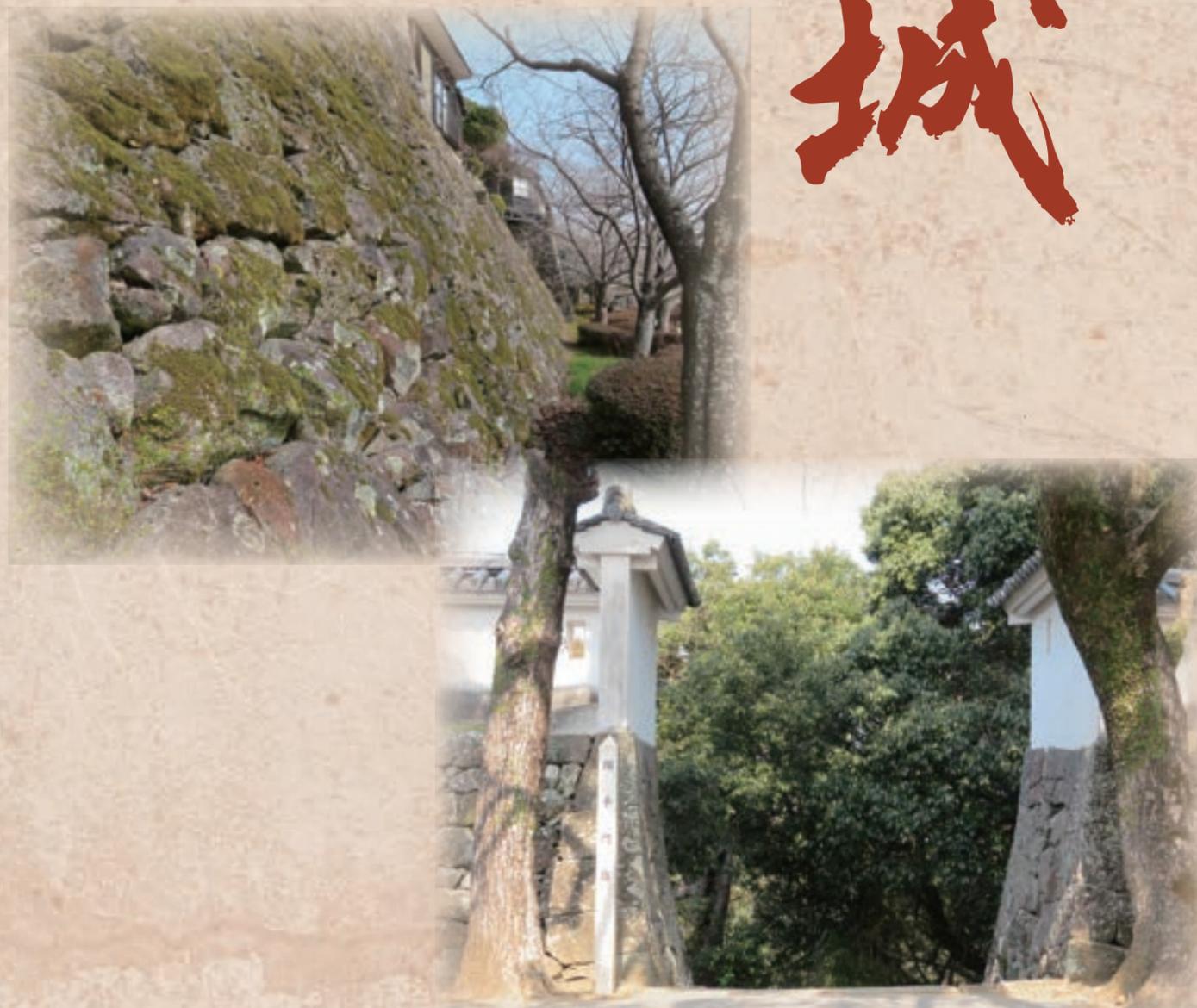
代	名前	生年	襲封 <sup>※1</sup>	在位	没年 <sup>※2</sup>	墓地	出来事	主君
初代	よしあき 喜前	1569	純忠長男	1587年 18歳	28年	1616.8.8 47歳	本経寺 朝鮮出兵 玖島城築城 万歳山本経寺建立	豊臣秀吉、徳川家康
2代	すみより 純頼	1592	喜前長男	1615年 23歳	4年	1619.11.13 27歳	本経寺 玖島城改築 大坂 <sup>※3</sup> 冬の陣に徳川方で参戦	徳川秀忠
3代	すみのぶ 純信	1618.10.9	純頼長男	1620年 2歳	30年	1650.5.26 31歳	長祐山承教寺 <sup>※4</sup> ⇒本経寺 大坂城の石垣修築 島原・天草一揆	徳川秀忠⇒家光
4代	すみなが 純長	1636.8.21	伊丹勝長四男	1651年 15歳	55年	1706.8.21 70歳	長祐山承教寺 ⇒本経寺 郡崩れ 藩校「集義館」開校(のちの大村高等学校)	徳川家綱⇒綱吉
5代	すみまさ 純尹	1664.3.21	純長次男	1706年 42歳	6年	1712.10.14 48歳	長祐山承教寺 ⇒本経寺 藩財政窮乏と借銀対策	徳川綱吉⇒家宣
6代	すみつね 純庸	1670.1.13	純長四男	1712年 42歳	15年	1738.5.13 68歳	本経寺 蔵米知行制の実施	徳川家継⇒吉宗
7代	すみひさ 純富	1711.4.5	純庸次男	1727年 16歳	21年	1748.11.21 37歳	本経寺 享保の大飢饉 甘藷(サツマイモ)栽培を奨励	徳川吉宗⇒家重
8代	すみもり 純保	1734.2.22	純富長男	1748年 14歳	13年	1760.12.24 26歳	長祐山承教寺 ⇒本経寺 玖島城の石垣修理	徳川家重⇒家治
9代	すみやす 純鎮	1759.8.20	純保次男	1761年 2歳	42年	1814.7.21 55歳	本経寺 藩校静寿園を五教館と改称	徳川家治⇒家斉
10代	すみよし 純昌	1786.1.25	純鎮長男	1803年 17歳	33年	1838.10.5 52歳	本経寺 長崎にてフェートン号事件 <sup>※5</sup> 勃発 梶山御殿建設	徳川家斉
11代	すみあき 純顕	1821.11.5	純昌四男	1836年 15歳	11年	1882.4.2 60歳	本経寺 藩政改革を行うも病気を理由に隠居	徳川家斉⇒家慶
12代	すみひろ 純熙	1830.11.21	純昌八男	1847年 17歳	21年	1882.1.12 51歳	東京青山墓地 ⇒本経寺 戊辰戦争・大村藩知事(廃藩置県まで) 京都霊園に松林飯山碑建立	徳川家慶⇒家定 ⇒家茂⇒慶喜

※1 襲封(しゅうほう)領地を受け継ぐこと ※2 年齢は現代式 ※3 大坂が大坂に改められたのは明治以降 ※4 承教寺(江戸の藩主菩提寺)東京都港区高輪  
※5 フェートン号事件:鎖国体制下の日本・長崎港にイギリス軍艦侵入事件。オランダ国旗を掲げて入港し、食糧強要などの乱暴を働く。その後、長崎奉行は切腹。



# 肥前國大村藩 玖島城

一五九八年(慶長三年)大村喜前が  
もともと島であった地に築城し  
居城として幕末まで機能しました。



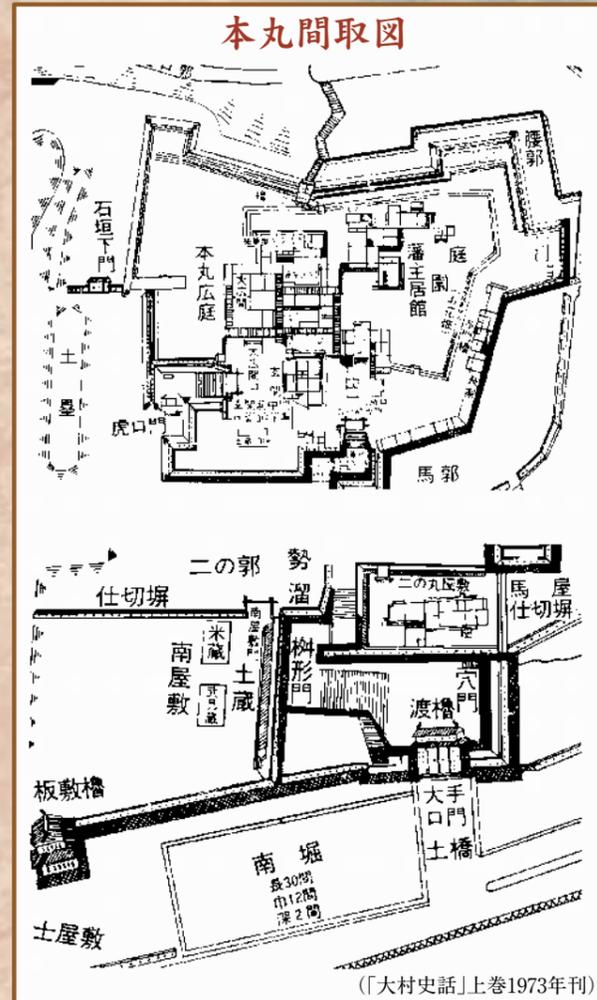
【問い合わせ先】  
(一社)大村市観光コンベンション協会



# 玖島城概要

大村湾に突き出した半島の先端に築城された平山城で、本丸、二の丸、三の丸から構成されています。本丸は比高15m程度、面積9,458㎡(2,861坪)のほぼ四角形(東西約55間、南北約45間)で、石垣で囲まれており、西に虎口門、南に台所門、北に搦手門の3つの虎口を持っていますが、天守は建造されませんでした。二の丸は29,921㎡(9,051坪)で石垣は無く中央に大規模な空堀があります。三の丸は半島先端の79,091㎡(23,921坪)の広大な平地でお船蔵や船関連の役所が置かれていました。また堀は全て海を利用したものであり海城の特徴を備えています。

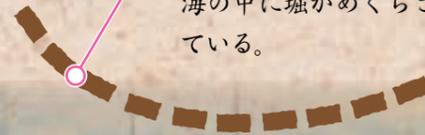
(長崎歴史文化博物館所蔵 大村市歴史資料館提供)



(「大村史話」上巻1973年刊)

## 捨堀

遠浅のため、敵の兵士が上陸できない様、海の中に堀がめぐらされていたと言われている。



## いろは段

改修前の大手口に通じる石段。いろは(にはへと)の語数と同数の47段のためいろは段と呼ばれる。ここの石垣は築城当時のものが残っている。

## 本丸跡

本丸跡の搦手周辺は築城当時の石垣を見ることができる。



## お船蔵跡

藩の船を格納していた場所。4代藩主純長の時代に城の南側(現板敷橋下広場)からこの地に船蔵を移した。船底のフジツボなどを火であぶって除去していた。(県指定文化財)



## 新蔵波戸

1686年幕府から官米3,000石を預かることとなり新蔵を建て、荷上げ用の波止として築かれた。その後も藩船等の発着に利用され、戊辰の役の時出兵した波戸と言われている。

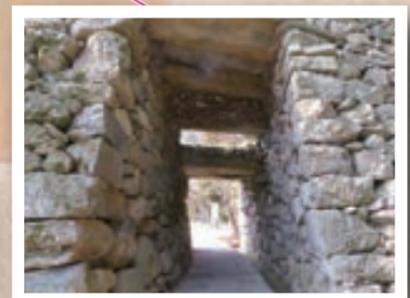


## 井戸



## 大手門

(「大村見聞集」より)



## 穴門跡

天上に監視の間口が付けられている。天上の板石は西彼大串より大村湾を通って船で運ばれた。